

令和8年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名：えがお

1 事業のタイトル

外国にルーツのある就学前幼児とその保護者のための日本語教室

2 背景・現状 (事実に基づきデータなどを用い、現在の静岡市にどのような問題があるのかを明確に記載してください。)

文部科学省の令和5年度調査によると、日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は増加しており、静岡県は全国4位で、前回調査(令和3年度)と比較して113%増(3,783→4,275人)となっている。背景には、就労を目的として来日する外国人が家族を帯同するケースの増加があるとされ、今後も同様の傾向が続くことが見込まれる。

しかし、静岡市において、就学前の段階における日本語支援の機会は限られている。現在、外国ルーツの就学前幼児を対象としたプレスクールは年2回程度の実施にとどまり、継続的に学べる場が十分に整っているとは言い難い。また、その子どもたちを対象とした日本語教室を継続的に実施している民間団体もない状況である。そのため、日本語や日本の学校生活に関する理解が十分でないまま入学する子どもや、就学に対して不安を抱える保護者が存在しており、就学前段階からの支援が不足していることが課題となっている。

3 目指す状態・成果 (現状に対して、どのような状態になっていることが社会の理想的な姿か、明確に記載してください。)

これらの現状を踏まえ、市と協働し、就学前段階から継続的に日本語支援および保護者支援が受けられる仕組みが構築されている状態を目指す。具体的には、就学前の子どもが、挨拶や自己紹介、簡単な受け答えなどの基礎的な日本語や、日本の学校生活における集団行動やルールを理解した上で入学できる状態を目指す。また、保護者についても、学校生活の流れや必要な準備について理解し、不安を軽減した状態で就学を迎えられることを目指す。さらに、こうした状態が実現されることで、入学後の学校生活への適応が円滑になり、子どもが安心して学べる環境が整うとともに、多忙な教員の負担軽減にもつながることが期待される。

4 社会的課題 (「2 背景・現状」と「3 目指す状態・成果」を比較し、目指す状態に至らない理由や問題点を明確に記載してください。)

小中学生に対しては、日本語指導体制が概ね構築されている一方、就学前幼児については公的な支援体制が十分とは言えず、支援の「制度的空白」が生じている。このため、就学前に必要な日本語能力や集団生活のルールを習得する機会が著しく不足している。また、保護者側においても、就学後に直面する言語の壁や学校生活への適応困難に関する情報が十分に届いておらず、早期支援の必要性が認識されにくいという意識面での課題も存在する。

このように、就学前段階における支援の不足は、制度面および情報・意識面の双方に起因しており、結果として必要な支援につながらないまま就学する子どもと保護者が生じていることが課題である。

団体名：えがお

5 事業の概要（「4 社会的課題」で掲げた課題の解決をするために、どのような事業を提案するのか及びその成果指標について、「3 目指す状態・成果」の内容を踏まえて記載してください。）

本事業では、就学前の外国ルーツの就学前幼児とその保護者を対象に、親子参加型の日本語教室を実施する。市から提供される就学に関する情報も活用しながら、挨拶や自己紹介、簡単な受け答えなどの基礎的な日本語、日本の学校生活における集団行動やルール、身近な語彙、話を聞く姿勢など、就学前に必要な力を遊びを通して自然に習得できるよう支援する。

また、本事業は単なる日本語学習の場ではなく、子ども同士・保護者同士が交流し、協力して活動する機会を多く設けることで、入学後の友人関係の形成や保護者同士のつながりづくりにもつなげる。さらに、親子で同じ内容を学ぶことで、家庭内でも継続して日本語や生活習慣に触れることができる環境づくりを行う。

【成果指標】※初年度のため、参加状況やアンケート結果等を踏まえ、次年度以降見直す

- ・保護者アンケートにおける「子どもが日本語であいさつ等の基本的なやり取りができるようになった」と回答した割合：80%以上
- ・保護者アンケートにおける「就学への不安が軽減した」と回答した割合：80%以上

6 市と協働をする理由（団体独自で行うのではなく、市と協働することが必要な理由や、市と協働することによって得られる効果等を記載してください。）

本事業は、対象となる就学前幼児およびその保護者に対して広く周知し、継続的な参加につなげることが重要であるが、団体単独では広報手段が限られ、必要とする家庭に十分に情報が届かない可能性がある。また、小学校入学に向けた具体的な情報についても、正確かつ最新の内容を継続的に把握することが難しい。

そのため、市と協働することで、関係部署や教育機関と連携した周知が可能となり、対象家庭への効果的なアプローチが期待できる。また、市から就学に関する正確な情報提供を受けることで、学校生活の流れやルール等を踏まえた、より実践的な支援を行うことができる。

さらに、保護者に対しても学校生活に関する情報を適切に伝えることができるため、不安の軽減につながるとともに、入学後の円滑な学校生活への移行を支えることが可能となる。このように、市と協働することで、事業の実効性および継続性を高めることができる。

7 団体の担う役割

本団体は、就学前の外国ルーツの就学前幼児とその保護者を対象に、日本語教室の企画・運営を担う。具体的には、小学校入学前に必要となる挨拶や自己紹介などの基礎的な日本語、日本の学校生活における集団行動やルールについて、遊びを通して身につけられるよう支援する。

また、生活言語能力（特に「聞く・話す」力）の向上を図ることで、入学後における教員や友達との意思疎通や学習内容の理解につなげるとともに、自分の考えを表現できる力の育成を目指す。さらに、静岡市が実施するプレスクールは主に次年度小学校入学予定児を対象として年 2 回実施されていることから、本団体では年少・年中児への支援を担い、同プレスクールへの円滑な接続を図る。

保護者に対しても、教室内での子どもの様子や学習内容を共有するとともに、必要に応じて相談に応じることで、不安の軽減に寄り添った支援を行う。

団体名：えがお

## 8 静岡市に担って欲しい役割

こども園運営課、幼児教育・保育支援課：外国ルーツの園児がいる園等への周知・広報を担い、「SMILE CLASS」（日本語教室）のチラシ配布等を通じて、対象家庭への情報提供を行う。また、本団体会員が園長会に出席して、日本語教室の説明する機会を希望する。

社会的包摂推進課：外国にルーツをもつ就学前幼児およびその保護者に関する情報共有を行うとともに、チラシ配布や参加案内の説明等を通じて、対象家庭への参加促進を担う。あわせて、子育て支援課に対してチラシ配布の協力を依頼する。さらに、静岡市国際交流協会が運営する相談窓口の利用者や日本語教室の参加者に対し、同協会を通して情報提供および周知を図る。

学校教育課（特別支援教育センター）：就学前に必要な学校生活に関する情報（小学一年生の年間スケジュール等）の提供を行う。また、本事業の参加者に関する情報共有を図り、入学後の円滑な学校生活への移行に向けて、必要に応じた連携を行う。

## 9 事業計画・実施スケジュール（協働パイロット事業で実施する事業のスケジュールを記載してください。2年間にわたる事業を検討している団体は、2年目の計画についても記載してください。）

「SMILE CLASS」日時：毎月第二土曜日、午前10時～11時 場所：清水有度生涯学習交流館

R08.07.18（土）挨拶、返事の仕方、自己紹介、お遊戯、前回の復習、夏休みの話、名前を書く、夏に関係する語彙、読み聞かせ、体の名前（〇〇がいたいです）

R08.08.22（土）挨拶、返事の仕方、自己紹介、お遊戯、前回の復習、夏休みの思い出、数字の読み方、時間の読み方〇時、色の名前他、名前を書く、読み聞かせ

R08.09.26（土）挨拶、返事の仕方、自己紹介、お遊戯、前回の復習、十五夜の話、名前を書く、秋に関係する語彙、読み聞かせ

R08.10.17（土）挨拶、返事の仕方、自己紹介、お遊戯、前回の復習、ハロウィンの話、工作、名前を書く、読み聞かせ

R08.11.21（土）運動会：準備運動、ドングリ拾い、他未定

R08.12.19（土）挨拶、自己紹介、返事の仕方、お遊戯、運動会の感想、クリスマス会、お正月の話、名前を書く

R09.01.16（土）挨拶、自己紹介、返事の仕方、お遊戯、福笑い、節分の話、お正月の感想、名前を書く、読み聞かせ

R09.02.20（土）挨拶、自己紹介、返事の仕方、お遊戯、名前を書く、ひな祭りの話、動詞、読み聞かせ

R09.03.13（土）挨拶、自己紹介、返事の仕方、お遊戯、名前を書く、親子で発表（一年間の感想他）、読み聞かせ、修了式

\* 学校教育課より提供された情報を踏まえて適宜、実施内容を変更する。

団体名：えがお

**10 協働パイロット事業終了後の展望・今後の活動展開**（協働パイロット事業終了後にどのように事業展開をしていく予定か記載してください。）

協働パイロット事業終了後は、本事業で得られた成果や課題を踏まえ、就学前段階からの日本語支援を継続的に実施できる体制の構築を目指す。具体的には、参加者の定着を図りながら、年間を通して継続的に参加できる日本語教室として発展させ、子どもと保護者が安心して通える居場所づくりを進めていく。また、参加した子どもが入学後の学校生活に円滑に適応できるよう、教室内での会話や協働的な活動を通して、集団で行動する力や他者との関わりを育むとともに、保護者同士の交流機会も充実させることで、情報共有や相互支援の促進を図る。

さらに、事業の効果を検証しながら、参加者数や開催回数、スタッフ等の実施規模の拡充を検討し、日本語支援の機会を段階的に広げていくことを目指す。

**11 実施体制及び主要スタッフの経歴**

基本毎月第二土曜日開催 会員は7名でそれぞれ得意分野を担当。毎回教室の終了後に反省会と翌月の教室の内容を打ち合わせている。

- ・ 鵜飼 俊江（代表）：静岡市日本語指導員、静岡市統括的な地域学校協働活動推進員/「えがお」代表、「清水日本語交流の会（ボランティア日本語講師）」会長、静岡市人権擁護委員（啓発研修副委員長）、「結楽（障がい者、外国籍のこども、興津地区住民が共助して生きがいを持ち続けることを目指す団体）」役員、企業日本語教師、静岡市多文化共生サポーター一期生
- ・ 北川 咲織（副代表）：元行政職員/ボランティア日本語講師
- ・ 藪谷 順子（会計）：今年度より静岡市日本語指導員/清水日本語交流の会会員、「キッズサポート MJ」（にほんごひろば）代表、静岡市多文化共生サポーター五期生
- ・ 若松 久美子（監事）：静岡市小学校教諭（静岡市日本語指導教員）
- ・ 川本 啓（イベント企画）：会社員/清水日本語交流の会会員、静岡市多文化共生サポーター二期生
- ・ 今泉 洋子（広報）：静岡市日本語指導員（元幼稚園教諭）/静岡市多文化共生サポーター一期生
- ・ 高畑 幸（アドバイザー）：静岡県立大学国際関係部国際関係学科 教授

団体名：えがお

**12 その他アピールしたいこと**（団体の専門性や先駆性、創造性など、特に団体としてアピールしたいことを記載してください。）

本団体は、教育および日本語指導に関する多様な専門性を有するメンバーで構成されている。大学教授（国際教育分野）や静岡市の日本語指導員、小学校教諭、元行政職員、元幼稚園教諭、ボランティア日本語講師が在籍しており、それぞれの専門性を生かした役割分担により、子どもの発達段階に応じた丁寧で手厚い日本語支援を行うことができる。

また、静岡市の多文化共生サポーターが4名在籍しており、外国人との関わりや支援経験が豊富であることから、多文化的背景をもつ子どもや保護者との円滑なコミュニケーションが可能である。これらの強みを生かし、子ども一人ひとりに寄り添った実践的な支援を行うことができる点が、本団体の特徴である。